

おらほの病院

99

～あたたかな医療をめざして～

諏訪中央病院 リレーコラム

近年、抗菌薬が効かないAMR（薬剤耐性）をもつ細菌が世界中で増えていて、医療機関内外でも問題となっています。

薬剤耐性菌はいつから存在していたのでしょうか。抗菌薬が普及し始めた1940年代からといわれていて、その後一気に世界中に拡散されました。すなわち、抗菌薬の開発と細菌の耐性獲得はいたごっこであると言えます。人類が新たな抗菌薬をいくら開発しても、細菌は新しい薬剤に対して次から次へと耐性化してしまふのです。加えて新しい抗菌薬の開発は進んでおらず、薬剤耐性菌による感染症の治療はますます難しくなっていくことが予測されます。

日本では、2016年に「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」が取りまとめられ、薬剤耐性の発生を遅らせ、拡大を防ぐために、取り組むことになりました。その一環として、11月は厚生労働省から委託を受けたAMR臨床リファレンスセンターが、世界的に脅威となっている薬剤耐性問題に対して、人気アニメ「はたらく細胞」とコラボレーションした全国的な普及啓発活動を展開しました。

諏訪中央病院では、国が推奨するよりも早い2009年より活動をはじめ、その活

諏訪中央病院

抗菌薬適正使用支援チーム (AST)



抗菌薬適正使用支援チーム(AST)：医師、薬剤師、検査技師、看護師、事務員など多職種で構成。抗菌薬の適正使用を推進、支援する目的で活動している。

筆者 志鷹 直子 (2列目右)

AMR問題を 知っていますか？

動も今月1500回を迎えます。抗菌薬適正使用推進チーム(AST)が、患者さんのお体の状態と併せ抗菌薬の量、投与期間、細菌検査の結果を含めて検討し、院内で使用される抗菌薬が適正に使用されているか、確認しています。チームの構成は、医師、薬剤師、細菌検査技師、看護師、事務員と多職種で週2回カンファレンスを行っています。

薬剤耐性菌問題は医療者だけの問題ではなく、皆さんにもできることが3つあります。1つ目は風邪の原因はウイルスであり抗菌薬は効きません。抗菌薬をむやみに欲しからず、医師から「抗菌薬は必要ありませんよ」と説明されたら、それはあなたのため、あなたの大切な方の未来のため、そして地域のため、世界のため長く広い目で抗菌薬の適正使用を考えている素敵な医師だと思ってください。

2つ目は、処方された抗菌薬は医師の指示通り、残したり人にあげたりしないで服用しましょう。

3つ目は、基本的な感染対策として、予防が大切ですので「手洗い・ワクチン・感染流行時マスクの着用」を行っていきましょう。

次回は来年1月12日掲載予定
(題字は鎌田實名誉院長)